

■□ 伊勢久株式会社 1930年(昭和5)



大津橋分室に隣接して建造されている。奥の白っぽい壁の部分はセメントモルタル吹付仕上げ。窓枠は同じものだが窓周りの装飾は外壁の仕上げと同様簡素化されている。



外壁は、二丁掛タイル張り、人造石テラコッタ。基礎の上の腰壁は竜山石の石板が使われている。



ファサードの3階の窓周りの柱及び柱頭などは人造石装飾。



窓周りにはタイルは使われておらず、人造石に砂入り塗料を吹き付けた（不詳）ような仕上げの装飾材で仕上げている。



外壁のタイルは施釉コタタキ二丁掛タイルでコーナー部にはR平が使われている。馬踏み目地の張り方になっている。

タイル寸法：60×225
(通常227に対して若干小さめ)



1階勝手口の内側腰壁部分にタイル張りが見られる。階段周りの施釉小口平タイルに比べて時代は新しそう。



内装でタイルが使われている部分は階段の段鼻と廊下のコーナー部に使われているほかはコンクリート壁ペンキ塗装仕上げだけ。

段鼻寸法：85×152×32、溝3本



廊下の20cmほどのコーナー部分に使われた施釉小口平タイル。役物はなく平物だけで床から腰部分までに張られている。上端笠木は木製。

タイル寸法：62×112×7

【特徴】

全体としては、あまりコストを掛けない仕上げとなっている。外壁のファサードと側壁の手前側だけタイル張りであったり、内部も階段は段鼻部分だけタイル張り、腰壁もコーナー部分のみタイル張り仕上げとし、その他はモルタル仕上げにペンキ吹付である。